

当て字の辞典

日常漢字の訓よみ辞典

東京堂出版

石桂魚 さけ

雑魚 ざこ

青花魚 さば

針魚 さより

馬鮫魚 さわら

秋刀魚 さんま

鬼頭魚 しいら

柳葉魚 ししや

鞋底魚 したびらめ

麻魚 しびれえ

紙魚 しみ

犁頭魚 しゆもくざめ

松江魚 すずき

小蛸魚 するめ

柔魚 するめいか

石桂魚 さけ

雑魚 ざこ

青花魚 さば

針魚 さより

馬鮫魚 さわら

秋刀魚 さんま

鬼頭魚 しいら

柳葉魚 ししや

鞋底魚 したびらめ

麻魚 しびれえ

紙魚 しみ

犁頭魚 しゆもくざめ

松江魚 すずき

小蛸魚 するめ

柔魚 するめいか

当て字の辞典

日常漢字の訓よみ辞典

当て字の辞典

平成三年六月十日 初版印刷
平成三年六月二十日 初版発行

編者 東京堂出版編集部
発行者 大橋 信夫
組版 (株)東京コピー
印刷 (株)廣 済 堂
製本 渡辺製本(株)

発行所 株式会社 東京堂出版

東京都千代田区神田錦町三ノ七 (千一〇二)
電話 〇三三三三二七四一 振替口座東京三三三〇

は し が き

昭和二十一年に当用漢字が制定されてから四十五年が過ぎ、この世代の人が日本の人口の過半数を占めるに至った。「今の若い人は字が読めない」という声を聞きはじめてから、久しくなる。

常用漢字表では「常」の音訓は「ジヨウ・つね・とこ」しかないが、このほかにも「常ただならぬ・常とこしえ・常とこに・常磐ときわ・常陸ひたち」などの読み方がある。古来詩歌によく詠よまれたホトトギスは「杜鵑・子規・杜宇・時鳥・不如帰・蜀魂・郭公・沓手鳥・怨鳥」などの書き方がある。「案山子かかし・女郎花おみなえし」などは一般に知られているが、「鳩尾みずおち・鷄冠木かえで」や姓氏の「春夏秋冬ひととせ・海千山千みゑるて」、名前の「稜威穂たけおほ」「謹子のりこ」、地名の「一尺八寸いっぺんちゅう・神母木いげのき」になると知る人ぞ知るで、読めない人にとってはクイズを解くようなものである。

こうした言葉の読み方を調べようとすると、国語辞典は読めなければ引けないし、漢和辞典は訓読語についてはあまり触れていない。そこで、当社では昭和三十一年に、古文獻から難訓語をつぶさに集めた『難訓辞典』を刊行し、さらに平成元年に一般向けの『難読語辞典』を出版した。

本書は、この両辞典とは異なる内容構成で、当用漢字世代の人のため、簡便で引きやすく実用的な辞

典を意図し、常用漢字を中心に日ごろ目にする漢字について、常用漢字表にはない読み方、あるいは通常とは異なる読み方をする言葉を採録した。大半が訓読語であるが、音読語も若干ある。結果として、当て字・熟字訓と呼ばれる言葉が多いため、書名を『当て字の辞典』としたが、日常漢字の訓よみ辞典である。

当て字とは「浅墓・茶化す・紐育」など、漢字の意味に関係なくその音や訓を借りて当てた言葉で、熟字訓とは「私語・五月雨・蒲公英」など熟字を訓よみしたものをいう。しかし、本書は難読語を中心としたので、当て字でも「勝手・泥棒・派手」のように読みやすいものは採録しなかった。ただ、常用漢字表付表にある「大人・今日・素人」や、「印度・硝子・型録」など外国語の当て字は採録した。また、当て字とはいわないが実用性を考え、人名・地名など難読固有名詞の主なものに収めることにした。なお、人名・地名の読み方について詳しく知りたい方は、当社の『難読姓氏辞典』『名前の読み方辞典』『名乗辞典』『難読地名辞典』を利用されたい。

部首引きや画引きは引きにくいので、本書は音引きとした。また前記の両辞典は、語句の第一字目の漢字で収録し、二字目・三字目の漢字が引けないが、本書は二字目・三字目もわかるよう、たとえば「秋刀魚」の場合は秋・刀・魚それぞれのところで収録した。それにより「魚」の字がどのような読まれ方をしているかが一目でわかり、言葉の知識を高めるよう工夫した。

本書には一八七〇漢字、延べ七九〇〇語を収録したが、これは難読語のごく一部に過ぎず、まだまだ

この何倍何十倍もある。漢字は、常用漢字表にかかわりなく、日本の伝統文化を伝えてわれわれの日常生活のなかで躍動しているのである。「美味^{おい}しい・陽炎^{かげろう}・土筆^{つくし}・叫天子^{ひばり}」などの言葉に接すると、繊細で情感ゆたかな、そして時にはユーモラスな、先人の造語感覚に感心させられる。本書が前述の難読辞典シリーズ同様、多くの人に活用されることを願う次第である。

平成三年五月

東京堂出版編集部

凡 例

ないものがあるので、その語例も掲載した。

〔例〕 天 あめ 「―地(つち)」「―が下」

(5) 姓氏や名前の読み方は、一般的なものを一、二例掲げることにしたが、何をもつて一般的とするか決め難い場合があり、やや恣意的である。

(1) 見出し漢字の配列は音読みによるが、常用漢字表に音読みのない字(姫・娘^{ジョウ})は訓読みとした。

また、常用漢字以外の字で、音より訓で読み慣れているもの(主に動植物名。蛙^{カエル}・鳶^{トビ}・櫛^{ケシ}・瓜^{ウリ}・頃^{キョウ}・尻^シ)は訓読みで配列した。

巻末に音訓・部首索引を付したので利用されたい。
同音漢字のなかは画数順とした。

(2) 見出し漢字の音訓は、常用漢字ではその音訓表の読みだけを記し、常用漢字以外の漢字の音訓は、配列や検索に必要な程度にとどめた。

(3) 見出し漢字の肩に、△印を付した字は人名用漢字、×印を付したものは常用漢字・人名用漢字以外の字である。

(4) 常用漢字表にある音訓でも、直ちに語例を思いつか

〔例〕 強突張 こうつくばり (今は「強突く張り」)

(7) 見出し語と違う漢字を当てたり、違う読み方がある場合は、「―」内に示した。

〔例〕 卷柏 いわじば 〔岩櫨葉〕「くさひば」とも。シダの一種

(8) 見出し語には簡単な意味か、「―」に入れて用例を掲げたが、言葉の意味は何通りもあるので、詳しくは国語辞典を参照されたい。

(9) 解説のなかで、↑で示したものは反対語・対照語の意味である。

〔例〕 上手 じょうず ↓下手

当
て
字
の
辞
典

あ

△**〔阿〕**

ア

四阿

あずまや
〔東屋〕とも。庭園などにある壁のない休息所

阿る

おもねる
へつらう。こびる

阿多福

おたふく
「豆」「あめ」

阿容阿容

おもめ
恥を恥ともしない

阿利布

オリブ
〔阿列布〕とも。常緑小高木。油を採る

加加阿

カカオ
常緑高木。種子からココア・チョコレートを作る

結麗阿曹篤

クレオソート

阿弗利加

アフリカ
六大州の一

阿蘭陀

オランダ
〔和蘭・和蘭陀〕とも。国名

本阿弥

ほんなみ
姓氏の一

〔亜〕

ア

亜ぐ

つぐ
〔次ぐ〕とも

亜

アール
広さの単位

安母尼亞

アンモニ

実布的利亞

ジフテリ
伝染病の一

亜細亜

アジア
六大州の一

亜米利加

アメリカ
国名

亜刺比亞

アラビア
〔亜拉毘亜〕とも。半島
〔半島〕語

亜爾箇保児

アルコー
〔酒精〕とも

亜爾然丁

アルゼンチン
国名

伊太利亞

イタリア
〔伊太利〕とも。国名

壤太刺利亞

オーストラリア
〔濠太刺利・濠州〕とも

壤地利亞

オーストリア
〔壤太利〕とも。国名

臥亜

ゴア
インドの西海岸の地名

西比利亞

シベリア
ソ連の東部地域

欧亜

ユーラシ
〔大陸〕

羅馬尼亞

ルーマニ
国名

露西亞

ロシア
ソ連の旧称

亜

つき
名前の一。鈴木亜夫(画家)

〔哀〕

アイ
あわ(れ)・あわ(れむ)

哀しい

かなしい
〔悲しい〕とも

可哀想

かわいそう

**×
〔埃〕**

アイ
ほこり

埃及

エジプト
国名

〔愛〕

アイ

愛しむ

いづくし
〔慈しむ〕とも。かわいがる

愛しむ

おしむ
〔惜しむ〕とも。愛着をもつ

愛しい

いとしい
かわいい

愛い

うい
愛らしい

可愛い

かわいい
〔こども〕

愛弟子

まなでし
特に目をかけた弟子

愛でる めでる「花を」

愛逢月 めであい 陰曆七月の異称

愛蘭 アイフルラ 「愛蘭土」とも。国名

愛鷹山 あしたか 静岡県にある山名

愛宕 あたご「山」「神社」

愛発関 あらちの 福井県にある奈良時代の三関の一

愛媛 えひめ 県名

愛 めぐみ 名前の一。鶴田愛(会社員)

愛 よし 名前の一。有坂愛彦(音楽評論家)

×〔鞋〕 アイ

鞋底魚 したびら「舌平目・舌鰈」とも。海魚

草鞋 わらじ わらで作った履物

△〔葵〕 あおい

板山葵 いたわさこ わさびを添えたかまぼこ

竜葵 うみほお 「海酸漿」とも。巻貝の卵囊

落葵 つるむら さき 「蓴菜」とも。つる性一年草

黄葵 とうろあ おい 「黄蜀葵・秋葵・一日花」とも。一年草

向日葵 ひまわり 「日輪草」とも。一年草

蒲葵 びろう 熱帯の常緑高木

野蜀葵 みつば 用 「三葉」とも。多年草。食用

山葵 わさび 多年草。食品

葵 まもる 名前の一。重光葵(大臣)

△〔茜〕 あかね

茜草 あかね 「茜・赤根・地血」とも。つる性多年草

〔悪〕 アク・オ わる(い)

悪し あし 「一からず」「折一」「善し」

言悪い いいにく いいづらい

悪戯 いたずら 「一っ子」

三悪道 さんまく どう 「さんなくどう」とも。仏教用語

悪阻 つわり 象 「おそ」とも。妊娠中の生理現象

×〔葦〕 あし

葦雀 よしきり 「葦切」とも。水辺の小鳥

〔圧〕 アツ

圧す おす 「押す」とも

押圧す おつべす 「押す」の方言

圧折る へしおる 押しつけて折る

〔扱〕 あつか(う)

腕扱 き うでつこ 「一の職人」

扱下す こきおろす 人を厳しくせめる

扱く こく 「稻を」

扱く しごく 厳しくきたえる。「槍を」

扱帯 しごき 「しごきおび」とも。女の腰帯の一

△〔鮎〕 あゆ

鮎魚女 あいなめ 「鮎並・相嘗魚」とも。海魚

×〔蟻〕 あり

食蟻獸

ありくい けもの

×〔粟〕

あわ

罌粟

けし
片をとる
「芥子」とも。越年草。実から阿

粟米草

ざくろそ
「柘榴草」とも。一年草

粟生

あおも
「あおう・あわいけ・あわふ」とも。姓氏の一

〔安〕

アン
やす(い)

安んぞ

いずくん
「焉ぞ」とも。どうして

安石榴

ざくろ
「石榴・柘榴」とも。落葉低木

安質母

アンチモ
金元素の一

安母尼亞

アンモニ

安芸

あき
旧国名。広島県

安心院

あじむ
大分県にある町名

安土

あづち
滋賀県下の地名。「―桃山時代」

安部

あべ
「あんべ」とも。姓氏の一

安

しずか
名前の一。蜂島安(会社顧問)

×〔按〕

アン

按察使

あぜち
奈良時代の官職名

〔案〕

アン

案内

あない
「あんない」の古い言い方

案山子

かし
「鹿驚」とも

×〔庵〕

アン
いおり

庵室

あぜち
寺院。寺小屋

庵治

あじ
香川県にある町名

庵原

いはら
静岡県にある郡名

〔暗〕

アン
くら(い)

暗

くらがり
「闇」とも。暗い所

暗争

だんまり
「黙」とも。歌舞伎の演出方法の一

暗夜

やみよ
「闇夜」とも。月のない暗い夜

×〔闇〕

アン
やみ

闇

くらがり
「暗」とも。暗い所

い

×〔已〕

イ
や(む)

已に

すでに「既に」とも

已むを得ず

やむをえ
「止むを得ず」とも

〔以〕

イ

以為えらく

おもえら
「謂えらく・思えらく」とも

以て

もつて「書面を」

所以

ゆえん
理由。わけ

以

もち
名前の一。後藤以紀(大学教授)

〔伊〕

イ

伊達

だて「男」

伊留満

イルマン
パテレンの次に位する宣教師

木乃伊

ミイラ

伊蘇普 イソップ イソップ物語の作者

伊太利 イタリア 「伊太利亜」とも。国名

伊蘭 イラン 国名

伊部焼 いんべや 岡山県産の陶器

伊 これ 名前の一。丸山伊明(会社役員)

×「夷」 イ
えびす

蝦夷 えぞ 「えみし」とも。古代の東北地方の人々

夷 えびす 「恵比須・恵比寿・戎・蛭子」とも。七福神の一

辛夷 こぶし 落葉高木

夷隅 いすみ 千葉県にある郡名

「衣」 イ
ころも

地衣苔 うめのき 「梅樹苔」とも。コケの一種

上衣 うわぎ 「上着・表着」とも

胞衣 えな 胎児をつつんだ膜や胎盤など

衣紋掛 えもんか 衣服をかけてつるすもの

更衣 きさらぎ 「如月・衣更着」とも。陰曆二月の異称

更衣 えころもが 「衣更」とも。春秋に衣服を着がえること

衣更着 きさらぎ 「如月・更衣」とも。陰曆二月の異称

衣笠 きぬがさ 「蓋」とも。絹を張った長柄の傘

黒衣 くろこ 「黒子」とも。「歌舞伎の一」

垣衣 しのぶぐ 「忍草・忍草」とも。シタの一種

衣魚 しみ 「紙魚・蠹魚・白魚」とも。衣服や本を食う虫

窃衣 すなびき 「砂引草」とも。多年草

窃衣 やぶじら 「藪虱」とも。越年草

烏衣 つばめ 「燕・乙鳥・玄鳥」とも。渡り鳥

直衣 のうし 天皇や高貴な人の平常の服

単衣 ひとえ 「単」とも。着物の一。ひとえもの

脛衣 はばき 「脛巾・脚巾・行纏」とも。旅のときすねにまくもの

母衣 ほろ 「幌」とも。雨よけの覆い

浴衣 ゆかた 夏のひとえの着物

「位」 イ
くらい

石位 いわくら 「岩座・磐座」とも。神のいる所

三位 さんみ 「一休」「從(じゅう)」

「医」 イ

医す いやす 「癒す」とも。「傷を」

「囲」 イ
かこ(む)・かこ(う)

周囲 ぐるり 「囲」とも。まわり

「依」 イ・エ

依 え 「帰」

依つて よつて 「因つて・由つて」とも

依知爾亞爾箇保兒 エチルアルコール

依的兒 エーテル 揮発性・可燃性の強い液体

依 より 名前の一。吉田依子

「委」 イ

委しい くわしい 「詳しい・精しい」とも

委曲 つばら 非常にくわしいさま

委せる まかせる 「任せる」とも

委ねる ゆだねる 「身を—」

〔易〕 イ・エキ
やさ(しい)

容易い たやすい やさしい。簡単

易易 やすやす 簡単に

〔威〕 イ

稜威 いつ 古語で威光・威勢

威す おどす 「脅す」とも。おどかす

威霊仙 くがいそ 「九蓋草」とも。多年草

諾威 ノルウェ 「那威」とも。国名

威 たけし 名前の一。井上威(会社役員)

〔胃〕 イ

曹胃謨 ソジウム 金属元素の一

〔為〕 イ

以為えらく おもえら 「謂えらく・思えらく」とも

為替 かわけ 「相場」「郵便」

為着 しきせ 「仕着」とも。主人が使用人に衣服などを与えること

為出来す しでかす 「仕出来す」とも

為る する おこなう

所為 せい 「気の—か」

為方無い せんかた 「詮方無い」とも

為 ため 「—にする」「—になる話」

為体 ていたら みつともないありさま

為遂げる なしとげ

為す なす 「大事を—」

為の果 なののは 「成の果」とも

為人 ひととな 生まれつき。もちまえ

為 なり 名前の一。上村政為(社長)

×〔畏〕 イ
かしこま(る)

畏 おそれ 「—多くも」

〔尉〕 イ

尉 じょう むかしの官位の一。能面の一

×〔帷〕 イ

帷子 かたばら 几帳の垂れ布。夏着のひと

△〔惟〕 イ

惟う おもう 考える

惟る おもんみる 「思惟る」とも。よく考え

惟神 かなながら 「随神」とも。「—の道」

惟原 これらは 姓氏の一

惟 ただ 名前の一。栃木孝惟(大学教授)

〔移〕 イ
うつ(る)・うつ(す)

移菊 うつろい 襲の色目

×〔萎〕 イ

萎女王 あまどこ 「甘野老」とも。多年草

萎れる しおれる 生氣を失いしほむ

萎びる しなびる 「いたキウウリ」

萎む しほむ 「調む」とも。「花がー」

石胡荽 ちどめぐ 「血止草」とも。多年草

萎える なる 「氣力がー」「足がー」

萎竹 なよたけ 「弱竹」とも。しなやかな竹

【意】 イ

新発意 しんぱち 新たに仏道に入った人

【違】 イ
ちが(う)・ちが(える)

筋違 すじかい 「筋交」とも。はすかい

仲違 なかたが 仲の悪い状態

【維】 イ

維摩經 ゆいまぎ 經典の一

維納 ウイーン オーストリアの首都

維 これ 名前の一。緒方維弘(大学教授)

×【熨】 イ
のし

熨斗 のし 「一紙」「あわび」

【遺】 イ・ユイ

遺す のこす 「財産をー」

【緯】 イ

緯糸 ぬきいと 糸。「よこいと」とも。織物の横糸。↑経糸(たていと)

×【縊】 イ
くび(れる)

縊る くくる 「首をー」

見縊る みくびる ばかにする

×【謂】 イ

謂 いい いわれ。わけ

謂 いわれ 理由。由来。「一因縁」

謂う いう 「言う・曰う」とも

謂ば いわば 言ってみれば

所謂 いわゆる 世に言われる。言うところ

謂えらく おもえら 「以為えらく・思えらく」とも

【育】 イク
そだ(つ)・そだ(てる)

育む はぐくむ 「夢をー」

阿育王 アショカ 「アソカ」「阿輪迦王」とも。古代インドの君主

紐育 ニューヨ アメリカにある都市名

△【郁】 イク

郁子 むべ 「野木瓜」とも。つる性常緑低木

郁 かおる 名前の一。木下郁(政治家)

△【磯】 いそ

荒磯 ありそ 古語であらいそ

磯蚯蚓 いそめ 釣餌にする環形動物

磯域 しき 石でできずいた城

磯馴松 そなれま 海辺の松

百磯城 ももしき 「百敷」とも。内裏。皇居

【一】 イチ・イツ
ひと・ひと(つ)

一枝黄花	あきのき「秋麒麟草」とも。 りんそう 多年草
一伍一汁	いちぶし「一部始終」とも。 じゅう 始めから終りまで
一昨日	おととい「おとつい」とも
一昨年	おとし
一昨昨日	さきおと「さきおとつい」とも
一昨昨年	さきおとし
三一	さんびん「一奴」「一侍」
十一月	しもつき「霜月」とも。陰暦十一月の異称
一寸	ちよつと「鳥渡」とも。少しのあいだ
一日	ついたち「朔・朔日」とも。月の第一日
一日花	おいらあ「黄蜀葵・黄葵・秋葵」とも。一年草
天一神	ながかみ 陰陽道でまつる神
一葉	はらん「葉蘭・紫蘭」とも。多年草
一二三	ひいふう いち・に・さん
一向に	ひたぶる「傾に」とも。ひたすらに

一揃	びんぞろ サイコロの一の目が出そろふこと
一月	むつき「睦月」とも。陰暦正月の異称
一	かず 名前の一。大原一枝(医師)
一	はじめ 名前の一。宇田一(大学教授)
一	「壹」イチ
壹岐	いき 長崎県にある島。旧国名
「逸」	イツ
逸早く	いちはや「一かけつける」
御見逸	おみそれ「一しました」
逸れる	そびれる「言いー」
逸れる	それる「弾がー」
逸れる	はぐれる「連れとー」
逸る	はやる「心がー」
独逸	ドイツ「独乙」とも。国名
逸見	へんみ「いつみ・はやみ・へみ」とも。姓氏の一

逸	はや 名前の一。大坂逸雄(会社役員)
「猪」	チヨ い・いのしし
猪籠草	うつほか「靱葛」とも。多年草
猪	しし「鹿・獸」とも。古語でけだもの
豪猪	やまあら「山荒」とも。背にとげのあるけもの
「芋」	イモ
芋茎	ずいき サトイモの茎。食用にする
塊芋	ほど「土芋」とも。つる性多年草
「日」	いわ(く)
日ウ	いう「言う・謂う」とも
日く	のたまわ「宜く」とも。おっしゃることに
「引」	イン ひ(く)・ひ(ける)
勾引す	かどわか「拐す」とも。誘拐する
被引者	ひかれもの「一の小唄」
引佐	いなさ 静岡県にある郡名

【印】 イン
しるし

印度 インド 国名

印南 いなみ 兵庫県にある郡名

【因】 イン
よ(る)

因に ちなみに ついでに言えば

因 よすが 「縁・便」とも。ゆかり。よる

因幡 いなば 旧国名。島根県

× 【咽】 イン
のど

鳴咽 おえつ むせび泣き

咽喉 のど 「喉」とも。「」から手が出る

咽ぶ むせぶ むせる。むせび泣く

【院】 イン

翰林院 アカデミ

雲林院 うじい 「うりんいん・うんりんいん」とも。京都の寺名

安心院 あじむ 大分県にある町名

【陰】 イン
かげ・かげ(る)

馬陰貝 うまのく 巻貝。別名コヤスガイ

陰陽道 おんよう どう 「おんみようどう」とも

陰地蔵 はなわら 「花蔵」とも。多年草

陰囊 ふぐり 「いんのう」とも。睾丸

陰 ほと 古語で女性の陰部

【飲】 イン
の(む)

飲食 おんじき 飲むことと食(べ)ること

飲兵衛 のんべえ 「呑兵衛」とも。酒のみ

【隠】 イン
かく(す)・かく(れる)

隠密 おんみつ こっそり行うこと。忍者

雪隠 せつちん 「せついん」とも。便所

雪隠金亀子 せんちこ がね 昆虫

羽隠虫 はねかく 昆虫

隠岐 おき 旧国名。島根県

う

△ 【卯】 う

卯木 うつき 「空木」とも。落葉低木

卯 あきら 名前の一。天野卯(大学教授)

【宇】 ウ

宇瓦 のきがわ 「軒瓦」とも。平瓦の一

杜宇 ほとぎ 「杜鵑・時鳥・子規・不如帰・郭公・蜀魂」とも。鳥

羅宇 らお 分 「らう」とも。きせるの竹管の部

宇柳貝 ウルグアイ 名 南アメリカにある国

【羽】 ウ
はね・は

羽魚 かじき 「旗魚・棍木」とも。海魚

合羽 カッパ 「雨」

音羽山 おとわや 京都東山三十六峰の山名の一

〔雨〕

ウ
あめ・あま

祈雨

あまごい 〔雨乞〕とも

五月雨

さみだれ 陰曆五月ごろの雨

時雨

しぐれ 晩秋から初冬に降るにわか雨

梅雨

つゆ 〔ばいう〕とも

春雨

はるさめ 春、静かに降るこまかい雨

雨久花

みずあお 〔水葵・浮蕎〕とも。水生一年草

白雨

ゆうだち 〔夕立〕とも

×〔兎〕

ト
うさぎ

兎の毛

うのけ とえ きわめて小さいことのため

木兎鳥

つくとり ミミズクの異称

×〔鬱〕

ウツ
ふさ(く)

鬱金

うこん 染料用植物。その色名

鬱金香

チューリ ツブ 多年草

×〔鰻〕

うなぎ

海鰻

あなご 〔穴子〕とも。海魚

×〔姥〕

うば

山姥

やまんば やまんば 〔やまうば〕とも。深山にすむという伝説的な老婆

×〔瓜〕

カ
うり

南瓜

かぼちゃ 野菜

木瓜

かりん 〔花欄・花梨〕とも。落葉高木。果実は食用

木瓜

はけ 木 〔鉄脚梨・放春花〕とも。落葉低木

胡瓜

きゅうり 〔木瓜・黄瓜〕とも。野菜

紅南瓜

きんとう 〔金冬瓜〕とも。一年草

金甜瓜

きんまく わ マクワウリの一種

西瓜

すいか 〔水瓜〕とも。一年性作物

蕃南瓜

とうなす カボチャの一品種

冬瓜

とうがん 〔とうが〕とも。一年性作物

黄瓜菜

にがな 〔苦菜〕とも。越年草

蕃瓜樹

ババリア 〔万寿果〕とも。くだも

糸瓜

へちま 〔天糸瓜〕とも。一年性作物

野木瓜

むべ 木 〔郁子〕とも。つる性常緑低木

割木瓜

う われもこ 〔吾木香・地榆・仙蓼・吾亦紅〕とも。多年草

×〔云〕

ウン
い(う)

云云

うんぬん 長い言葉を省略する語

云云

しかじか 〔然然〕とも。〔かくかく〕

云爾

しかいう 文章の末尾に用い「上述のごとく」の意

〔雲〕

ウン
くも

雲丹

うに 〔金冬瓜〕とも。一年草

雲母

きらら 〔きら〕とも。〔一引〕―絵

紫雲英

げんげ 多年草。別名レンゲソウ

紫雲草

すずむし 〔鈴虫草〕とも。多年草

東雲

しののめ 明け方の東の空の雲

雲雀

ひばり 〔告天子・叫天子・叫天雀〕とも。小鳥

雲脂

ふけ 〔頭垢〕とも。〔頭のー〕